

佳作

## 忘れられない大切な「感動」

長崎県 島原高等学校一年 宮崎 脩子

「感動」といえば思い出すのは去年の夏です。それは中学校最後の中体連です。私は小学三年生から剣道をしています。勝ちたい、たくさん賞をもらいたい、そんな思いが強く中学校でも続けることにしたのです。中学校の大舞台

といえば夏の中体連です。県で優勝し、全国大会出場そして上位入賞が目標でした。それを目標に毎日の練習に取り組んでいました。しかし中一のときの県大会では団体準優勝、中二のときは決勝リーグにも残れませんでした。個人戦

では県大会に出場したこともありませんでした。一年、二年のときとても悔しい結果に終わりました。だから三年のときにはいい結果を残したいと思っていました。なんといっても中学校最後の夏だったから……。

私は三年でキャプテンをしていました。みんなの先頭にたち、チームをまとめてきたつもりです。県大会までの練習はともきつかったです。途中で何度も逃げ出さなくなりました。先生にかかっていく練習は本当につらかったで

す。遠征にもよく行きました。熊本や福岡、佐賀など土日なんて家にいることがほとんどありませんでした。県大会前には一部練もありました。卒業生の先輩たちが私たちのために練習に来てくれたのです。そんないろんな人の応援もあり毎日のきつい練習にも頑張っただけではありません。試合の二日前の練習で私は、足を痛めてしまったのです。練習中に他の人とぶつかり強く打ってしまいました。歩くのも痛く試合前日の練習も思うようにできませんでした。

試合の前日、私は緊張してなかなか眠れませんでした。試合の二つ足のことが気になり落ち着きませんでした。足が痛くて試合に出れなかつたらどうしようかと不安でした。私は市の予選で

個人一位だったので県大会に出れました。一回戦突破。一回戦は思っていたより緊張しました。体が思うように動かず変なところに力が入ってしまいました。足をかばうような試合でした。二回戦突破。二回戦は力を抜いて自分の剣道ができました。三回戦は小学生の頃からのライバルとでした。その人にはいつも負けていました。私の中では二回戦が決勝のようでした。お互いに一本を取れず延長が続きました。しかし相手の場外反則で勝敗は決まりました。三回戦突破！四回戦は新人戦に負けたときの相手でした。でも私は三回戦の試合で自信がつき四回戦も突破できました。足の痛みはいつの間にかなくなっていました。いよいよ決勝戦。相手も強

い人ではあったが私の気持ちの方が上だった  
ような気がします。二本勝ちをし、優勝したの  
です。二本目が決まったときは飛び上がるほど  
うれしかったです。見守ってくれていた母の方  
を見ると泣いていたのです。母のところに行き  
泣いて喜び合いました。

「よくやったね。すごい。次は団体戦だよ。気  
抜いちゃダメやけんね。」

母の言葉がズンツとのしかかりました。個人で  
は優勝したがまだ団体戦があるのです。団体戦  
で優勝しなければ目標達成ができないのです。  
団体戦はチーム一団となって決勝戦までこま  
を進めてきました。決勝戦では去年の優勝校と  
でした。その時の私にはそんな関係ありませ

あのとときの感動は忘れることのできない大切  
な、感動の一つです。

九州大会、全国大会にも出場でき、九州大会  
は個人ベスト8、団体ベスト8。全国大会の個  
人はなんとベスト8、団体もベスト16といっ  
すばらしい成績を残すことができました。三年  
の夏にたくさんの忘れられない感動ができま  
した。しかし、全国制覇できなかったのは悔し  
い思い出です。なのでそれを果たすために高校  
で剣道を続けています。今年の夏は全国制覇を  
のがしたので来年の夏、その次の夏は絶対果た  
します。またすばらしい感動を手に入れられる  
ように頑張りたいと思います。私は、感動を手  
に入れるために頑張ることばつてもすばらし

んでした。優勝しか頭にありませんでした。試  
合は相手チームがリードしてきました。大将の  
私が勝たなくては負けるという試合の展開に  
なりました。私は落着いて試合に臨みました。  
心の中で勝てる勝てる何度も繰り返してい  
ました。私は二本勝ちし逆転勝利で優勝したの  
です。県で一位になったのです。チームのみんな、  
先生、親みんなで泣きました。先生からも  
「よくやった。」

と言葉をかけてもらいました。涙が止まりませ  
んでした。うれしくて、そしてまだ信じられま  
せんでした。このとき私は、感動を感じまし  
た。今までのことが頭に浮かび、今まできつい  
練習頑張ってきて良かったなあと思いました。

いことだと思っています。

